

社会福祉法人聖霊会聖霊病院 2025プラン

令和 8 年 8 月 策定

【聖霊病院の基本情報】

医療機関名：社会福祉法人聖霊会聖霊病院

開設主体：社会福祉法人聖霊会

所在地：愛知県名古屋市昭和区川名山町56番地

許可病床数：194床

（病床の種別）

すべて一般病床

（病床機能別）

急性期病床 145床 回復期病床 34床 慢性期病床 15床

稼働病床数：194床

（病床の種別）

すべて一般病床

（病床機能別）

急性期病床 145床 回復期病床 34床 慢性期病床 15床

診療科目：内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、脳神経内科、外科、消化器外科、
整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、
緩和ケア内科、緩和ケア外科

職員数：（令和8年8月1日現在） ※常勤換算にて記載

- ・ 医 師： 31.1人
- ・ 歯 科 医 師： 1.0人
- ・ 看 護 職 員： 160.1人
- ・ 医 療 技 術 職： 73.9人
- ・ 事 務 職 員： 54.4人
- ・ その他職員： 25.8人

併設事業

聖霊病院訪問看護ステーション

【 1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

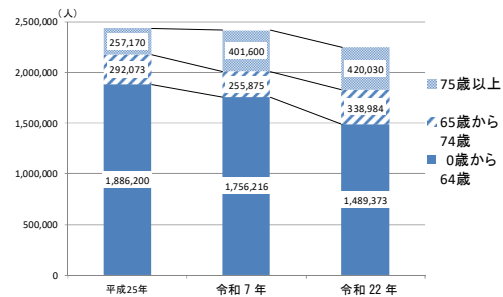
(人口の見通し)

○ 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
○ 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

＜人口の推移＞ ※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区 分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年	平成25年	令和7年	令和22年
	(1.00)	(0.99)	(0.92)	(1.00)	(1.18)	(1.35)	(1.00)	(1.57)	(1.62)
県	7,434,996	7,348,135	6,855,632	1,647,063	1,943,329	2,219,223	741,801	1,165,990	1,203,230
名古屋・尾張中部	2,435,443	2,413,691	2,248,387	549,243	657,475	759,014	257,170	401,600	420,030
	(1.00)	(0.99)	(0.92)	(1.00)	(1.20)	(1.38)	(1.00)	(1.56)	(1.63)

＜名古屋・尾張中部構想区域＞



(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷)の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。

- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内(18病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされています。
- 平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU)については尾張東部医療圏へ患者の流出があります。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

＜医療資源等の状況＞

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	325	137	—
人口10万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口10万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口10万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口10万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口10万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口10万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口10万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口10万対	64.6	64.6	100.0%

区 分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口10万対	197.9	268.5	135.7%
病床100床対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口10万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口10万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口10万対	486.1	587.6	120.9%
病床100床対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積(km ²)	5,169.83	368.34	—

(入院患者の受療動向)

【名古屋医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあります。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられます。

＜平成25年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位: 上段 人/日、下段: %)

患者住所地	医療機関所在地													合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	10.2%	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	21	4,325
		88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	0.5%	100.0%
慢性期		2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	2,743
		79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	100.0%

＜平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向＞
(単位：上段 人／日、下段：％)

医療機関所在地		患者住所地														
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826	
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	—	0.6%	2.6%	100.0%	
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848	
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	—	0.5%	2.9%	100.0%	
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830	
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	—	0.4%	2.6%	100.0%	
	慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607	
		84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	—	0.9%	—	—	0.6%	100.0%	

・厚生労働省から提供された「必要病床数等推計ツール」のデータを基に作成。
・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が 10 (人／日) 未満となる数値は公表しないこととされており、「*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

＜平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞
(単位：上段 人／日、下段：％)

患者住所地		医療機関所在地													
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	—	—	—	—	27.5%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	—	30.7%	—	6.0%	17.2%	—	—	—	—	—	*	—	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	—	38.5%	—	6.6%	16.0%	—	—	—	—	—	*	—	100.0%
	慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162
		20.4%	—	64.2%	—	—	15.4%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%

＜平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向＞
(単位：上段 人／日、下段：％)

医療機関所在地		患者住所地													
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	—	83.7%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	*	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	—	14.9%	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	0	*	289
		41.2%	7.3%	36.0%	—	10.4%	5.2%	—	—	—	—	—	—	—	100.0%

② 構想区域の課題

- 大学病院が 2 病院あり、救命救急センターも 6 か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

③ 自施設の現状

- ・ 社会福祉法人聖霊会聖霊病院 理念・基本方針
理念：「愛と奉仕」
地域医療を通して、キリストの愛をもって人びとに奉仕します。
基本方針：
 - ・患者さん中心の思いやりのある医療を行います。
 - ・人権尊重に基づいて患者さんの価値観に配慮した全人的医療に努めます。
 - ・医療人として資質向上に努め、良質で安全な医療を実践し、信頼される病院をめざします。
 - ・地域医療連携を推進し、地域の方々の医療と福祉の向上に貢献します。
 - ・カトリック医療施設として、すべてのいのちを大切にします。

- ・ 診療実績（令和 7 年度実績）
届出入院基本料：急性期一般入院料 2、地域包括ケア病棟入院料 2、
緩和ケア病棟入院料 2
平均在院日数： 13.6 日
病床稼働率： 78.1%
入院患者延数： 55,329 人
外来患者延数： 74,696 人
救急搬送件数： 2,030 件

- ・ 当院の特徴
地域多機能型ハブ病院として、4 機能のうち急性期（高齢者救急等）、回復期（地域包括ケア）、慢性期（緩和ケア）医療の 3 機能を担っています。特に、大腿骨近位部骨折や胸腰椎疾患の手術・入院医療、消化器や循環器等の内科領域の救急・入院医療、緩和医療を中心に医療を提供しています。

- ・ 当院の担う政策医療
 - ・緩和医療の提供
当院は 15 床の緩和ケア病棟を有しています。この病棟には緩和医療の専門医のほか、がん性疼痛看護認定看護師やパストラルケアワーカーなどを配置し、多職種が連携してがん患者さんの痛みや不安を和らげ、生活の質（QOL）向上を図っています。
 - ・救急医療の提供
高齢者に対する医療を中心に救急医療を提供しています。特に大腿骨近位部骨折や胸腰椎疾患の手術・入院医療、消化器や循環器等の内科領域の医療が中心となっています。そのほか誤嚥性肺炎、尿路感染症、めまい等にも対応しています。昨年度の救急車受け入れ件数は 2,030 件となり、一月あたり約 170 人の救急患者を受け入れました。
 - ・在宅・介護との連携
当院では以前より在宅医療や介護施設との連携に力を入れており、多くの介護施設や

在宅医療を担うクリニックの協力医療機関となり顔の見える関係を構築しています。患者情報の共有や症例検討などを通して、患者さんにより適切な医療とケアが提供できるよう連携強化を図っています。レスパイト入院から緊急入院まで幅広く受け入れを行っています。

- ・ **他機関との連携**
地域医療連携は当院の基本方針にも掲げているように、当院にとって最重要項目の一つであります。高度急性期病院での初期治療を終えた患者さんの受け入れやクリニックや介護施設等からの救急受け入れ・検査受け入れ、回復期リハビリテーション病院や在宅・介護施設等への転院・退院等々、地域包括ケアシステムのちょうど中心に位置する病院と考えます。介護保険施設からの患者受け入れにおいて、現在協力対象施設として連携体制を構築している施設は6施設で、その中の特別養護老人ホームとは定期的な訪問や、WEB会議を開き、患者さんの情報共有を図っています。

④ 自施設の課題

- ・ 約20年前の病院建て替え工事による借入れが重い負担となっています。また病院収支においても最近10年間の多くの年度で経常収支マイナスとなっており、安定的な病院経営ができていません。新たな設備投資や医療機器の新規購入・更新に関しては、十分な対応ができておらず、修繕や故障対応にとどまっているのが現状です。
- ・ 医師・看護師等の医療スタッフの人材確保が厳しい状況です。医師は常勤医師25人に対して非常勤医師が46人（常勤換算7.1人）と非常勤医師の占める割合が高く、安定的な医師確保ができていません。また、看護師も必要人員を確保することが難しく、1つの病棟（17床）を一旦休止せざるを得なくなった大きな要因となっています。

【2. 今後の方針】

当院の課題である病院経営と医療スタッフ確保の受難を鑑みるに、現在の診療体制を維持・改善していくには、当法人単独での運営には限界が生じています。地域医療を維持し、安定した医療提供体制を継続するためには、より強固な経営基盤と医療人材確保力を有する学校法人藤田学園への事業譲渡が最適であると判断しました。

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 当院が地域で求められている役割は、現在の3機能（高齢者救急、地域包括ケア、緩和ケア）の継続と考えています。そのためには、今後も近隣の高度急性期病院や回復期病院、在宅・介護施設等との連携を密にして、現行どおり地域への医療提供を維持していきます。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の病床機能をそのまま維持します。
- ・ 急性期病床の一部（17床）が休止していますので、その活用を検討していきます。

③ その他見直すべき点

- ・ 救急医療体制において、多くの非常勤医師が担っているため、入院後の診療や病院の方針等に関して意思疎通が十分ではないケースがあります。常勤医師を確保して、当院の医療体制において受け入れ可能な救急患者に適切に対応できるよう、救急医療体制の充実を図ります。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 （令和7年度病床機能報告）		将来 （2027年度）
高度急性期		→	
急性期	145床		145床
回復期	34床		34床
慢性期	15床		15床
（合計）	194床		194床

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標
2026年度	○学校法人藤田学園への事業譲渡及び今後の病床のあり方に関して、地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 ○事業譲渡に向けたデューデリジェンス、職員雇用等の検討	○当院の事業譲渡の背景及び今後の病床のあり方について本プランを策定 ○地域医療構想調整会議において、当院の事業譲渡及び病床のあり方に関する合意を得る ○事業譲渡契約書に基づき適切に事業譲渡する
2027年度		○4月、藤田医科大学聖霊病院（仮称）として開院

② 診療科の見直しについて

特に見直しの予定はございません。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 90%以上
- ・ 救急搬送件数： 2,000件/年間
- ・ 紹介率： 50%
- ・ 逆紹介率： 40%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 55%
- ・ 流動比率： 300%